



秋田の売り込み・発想を変えて

新型コロナウイルスの突然の出現で世界中の医療現場が^{ひっばく}逼迫状態となり、人の移動や集合の制限により日常生活は不便さを強いられ、すべての経済活動が経験したことのない低迷状況におかれ、まさに数百年に一度というような危機的状況に陥っているといても過言ではありません。

そのようななかで、人の移動や集合が感染拡大につながることから、近年発達が著しいICTツールを活用したリモート勤務やリモート授業、リモート会議、総括してテレワークという手法が大きく注目されるようになっていきます。

当然、具体的に「人」や「物」に接し仕事をしなければならない分野や、教育における現物実験などはテレワークではできませんが、事務作業や座学、会議などはここ数ヶ月でごく当たり前のことになってきました。

ということは、首都圏などで高額で狭い住居に住み、高い固定費をかけたオフィスに満員電車で1時間以上もかけ出勤し、終電車を気にしながら飲んでいような、身も心も疲れる生活から、住居費も安く通勤も楽、余暇の楽しみ方も多種多様な地方に暮らしながら、東京の本社や海外の支店との間でテレワークで仕事が出来るということになります。

また、企業にとっても今まで当たり前であった諸経費が節減でき、企業利益にもつながり、研究開発費や社員の給与に還元することができるといったメリットが生じます。

そこで、本県では全国に先駆けて東京の株式上場企業4千社に、秋田の魅力をPRするとともに、地方へのテレワーク移住やテレワーク拠点の設置について大がかりなアンケート調査を実施しています。

「秋田は寒くて雪国で田舎だから、誰も来ないよ」などと思っははいけません。

首都圏の企業から秋田支店や営業所に転勤してきた方の話を伺いますと、東京に帰りたくないと言う方も多く、定年後そのまま秋田に居着いた人もいます。

西日本は雪は降らないが夏は暑過ぎ、台風が多く、その反面、秋田は四季折々すべての楽しみ方ができ、台風も少なく人生を楽しめる所だと言います。

休日には首都圏の半額以下の費用で東京のサラリーマンの憧れ、ゴルフや釣り、冬は温泉に浸かりスキー・スノーボー、子供は安心して学校に通わせられるし、夜の飲み会も美味しくて安い、遅くなくてもタクシー代は僅か、^{わず}借り上げ社宅は広くて家庭菜園もでき、空気は美味しく天国だ、秋田の人はうらやましいというような声を多く聞きます。

しっかり仕事をし余暇を豊かに過ごす、本来の人間生活の姿なのです。

新型コロナウイルスによる社会の変革は、秋田に別の世界をもたらすかもしれません。